



あなたの健康状態は？

肺がん検診の受診率
男47.5%、女37.4%

ゲリラ豪雨や急激な気温上昇など異常気象が相次ぐと、なんとなく体調が悪いという人も多いようですが、大きな病気の前兆の場合もあります。

厚生労働省の「平成25年 国民生活基礎調査の概況」では、病気やけが等で自覚症状のある人（有訴者）

入院者は除く）は人口千人当たり312.4（有訴者率）となっており、性別では、男276.8、女345.3と女性が高くなっています。年齢階級別では、「10～19歳」の176.4が最も低く、年齢階級が高くなるにしたがって上昇し、「40～49歳」281.1、「50～59歳」319.5となり、「65歳以上」では

466.1、「75歳以上」では525.6にもなります。

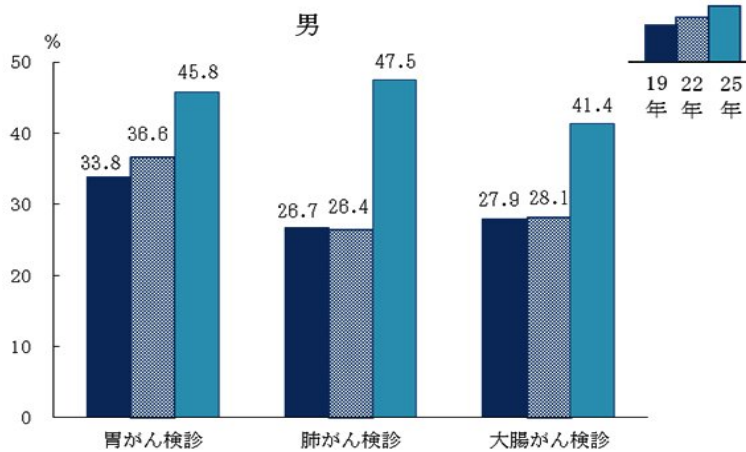
症状別は、男性では「腰痛」が最も高く、次いで「肩こり」「鼻がつまる・鼻汁が出る」、女性では「肩こり」が最も高く、「腰痛」「手足の関節が痛む」となっています。

傷病で通院している人（通院者）は人口千人当たり378.3（通院者率）で、性別では、男性358.8、女性396.3とやはり女性が高くなっています。傷病別では、男性は「高血圧症」での通院者率が最も高く、次いで「糖尿病」「歯の病気」、女性は「高血圧症」が最も高く、次いで「腰痛症」「眼の病気」となっています。

がんの早期発見・治療のためにはがん検診が有効とされますが、40歳から69歳の人（子宮がん（子宮頸がん）検診は20歳から69歳、入院者を除く）について、過去1年間にがん

検診を受診した人は、男女とも「肺がん検診」が最も多く、男性47.5%、女性37.4%で、過去2年間に子宮がん（子宮頸がん）、乳がん検診を受診した人は、子宮がん（子宮頸がん）検診42.1%、乳がん検診43.4%となっています。

性別にみたがん検診を受診した40歳から69歳の者の割合
（子宮がん（子宮頸がん）検診は20歳から69歳）



（注）入院者は含まない。

厚生労働省「平成25年 国民生活基礎調査の概況」

